



## 二十歳の声

私たちは、今日の成人式で大人の仲間入りをします。今日は、せっかくみなさんの前で話をする機会を与えていただいたので、今までの20年間、私が長門市でどのようなことを学び、そしてこれから大人としてどのようなことをしたいのかを述べ、みなさんと一緒に長門市について考えてみたいと思います。

私は、仙崎地区に生まれ、地元の小学校、中学校を卒業して、仙崎にある水産高校に入学しました。長門市は水産都市として全国でも有名であり、また父が漁師をしていたこともあって、海の恵みのすばらしさは小さい頃から知っていました。しかし、水産高校で海のことを専門的に学ぶと、海の偉大さを改めて痛感すると同時に、海の怖さや水産業が抱えている問題を知り、長門市の水産業が栄えるために何か自分にできることはないだろうかと考えようになりました。

高校を卒業してすぐに、私は、父のあとをついで漁師になりました。毎晩、父と一緒に魚を捕りながら、海の恵みに感謝する一方、この豊かな海をどうすれば守っていけるのだろうかと考えています。先日、「自然に優しく・自然と共存する水産業」について、研究



を続けている水産高校の私の後輩たちが、その研究内容が高く評価され、文部大臣賞を受賞しました。私は、その研究に現役の漁師として参加し、後輩たちと一緒に「自然と共存する水産業」について考えました。私や水産高校の後輩たちだけの力では、あまり大きなことはできませんが、この研究をきっかけに多くの人たちが環境問題について考えるようになってほしいと思います。また、そのことが水産都市長門の繁栄だけでなく、世界中の人たちが安心して暮らせる地球を守ることにもつながると思います。

長門市では、今年の春に、本格的な芸術やスポーツを楽しむことができる「長門地域文化体育施設」がオープンします。これをきっかけに、長門市が日本中に文化を発信するまちなってほしいと思います。この会場の中には、長門市に住んでいる人、進学や就職で長門市から離れ暮らしている人がいると思いますが、みんな自分が生まれ育った長門市が好きはずです。日本のどこにいても、長門市に誇りを持ち、長門市が日本一輝いているまちなるよう行動し、あるいは、応援してほしいと思います。

今年、2000年です。新たな節目の年でもあります。この節目の年に成人をむかえる私たちは、21世紀に活躍する若者として期待されています。私は、この社会の期待に応えるために、これからは大人として、「今自分は何をしなければならぬのか?」「今自分には何ができるのか?」を考えながら行動しようと考えています。

松本和也さん  
（鳥越1区）

まつもと かずや さん



▲出口ではボランティアの高校生により記念品が手渡された



▲懐かしい友人達と写真を撮り合う光景も